

# 県高P連会報

第 116 号  
2017.2

編集発行

富山県高等学校PTA連合会  
発行人 会長 石坂兼人  
富山市千歳町1-5-1  
富山県教育記念館41号  
TEL 076(432)2810  
FAX 076(432)1501

## 平成28年度県高P連大会・指導者研修会を開催

平成28年度富山県高等学校PTA大会・指導者研修会が10月25日、ホテルグランテラス富山で開催されました。

開会式では、石坂兼人会長から、「高校のPTA活動は、3年間という時間の制約がある。本研修会で、他校の研究発表を聞くことは、硬直しがちな各校のPTA活動に刺激を与えてくれるものと思う。是非4校の研究発表を各PTAに持ちかえってアレンジし、子供たちのために活かしてほしい。」との挨拶がありました。



知事の祝辞を、渋谷克人県教育委員会教育長が代読されました。「多くの生徒が目標を持って勉学に励み、文化やスポーツ活動に打ち込む充実した高校生活を送っていることは、本人の努力はもちろんであります。保護者の職員の献身的な指導と、皆さんの温かいご支援の賜物と心から感謝を申しあげます。

今日、少子高齢化や人口減少、情報化、グローバル化などの急速な進捗に伴い、教育を取り巻く環境が大きく変化し、学校や家庭、地域社会において、様々な新しい課題が生じています。こうしたなか、皆さまには日ごろから様々なPTA活動に熱心に取り組んでいただいております。特に、今年度は、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことを受け、選挙の仕組みを分かりやすく解説した主催者読本を作成いただき、県内の高校3年生に配布いただきました。また、昨年度に引き続き、スマホの普及による生活習慣の乱れ等に対応するため、「イレン・セブン運動」に取り組んでいただいております。この場をお借りいたしまして深く感謝を申しあげます。

- 一 家庭教育とPTA  
地域と伝統を守り、現状を打破する！  
八尾高校井泉会前会長 教育振興会会長 渡辺 清美  
高校教育にPTAは どのように関わるべきか  
新湊高校PTA 会長 油谷 秀隆
- 二 高校教育とPTA  
地域の教育力を生かした  
南砺平高校PTA 会長 折口 和男
- 三 PTA活動で学ぼう！  
楽しくもう！ つながろう！  
本校における取組と  
なみ総合支援学校PTA 会長 上田 春江



全体討議では各発表に対して様々な質疑応答がなされ、活発な討議が行われました。

その後、県教育委員会生涯学習・文化財室家庭成人教育班の君波敦子班長と高岡高校の米谷和也校長から講評をいただきました。

君波班長は、「各学校の実践は学校の特色を活かし地域との関わりを大切に活動であり、学校生活で子供たちが直面する進路選択などの諸課題に、親として誠実に向き合っている点で大変素晴らしい活動であった。八尾高校の地区別懇談会・親と子の懇談会、新湊高校のキャリアアガイダンスへの協力、南砺平高校の地域の教育力を活用した活動、となみ総合支援学校の地区別情報交換会・炊き出し訓練など、親が学校行事に積極的に関わり、子供を理解し、共に成長しようという熱意が感じられる取り組みであった。4校の熱心な実践に敬意を表したい。」と助言されました。

米谷校長は、「八尾高校は、地域に根づいた活動がなされている。校訓の「高啼く理想 道を拓かん」の精神の下、「現状打破」をぜひ達成していただきたい。新湊高校も地元の期待が大きい学校である。その思いに応え、ともに子供たちを育てていくことが大事である。南砺平高校は、地域に支えられた心温まる指導が伝わってくる活動紹介であった。今後ともぜひ継続していただきたい。となみ総合支援学校は、学校、家庭、地域の三者の連携の在り方を、これからもよく見ていくことが大切である。また、子供と共に学ぶことが重要であり、少しでも教育環境が改善されるように支援学校から発信していただきたい。」と助言され、「将来の子供の成長のため汗をかくことが重要であり、本日の発表は、4校とも素晴らしい実践内容であった」とまとめられました。

最後に記念講演があり、彫刻家並びに画家でニューヨーク在住の吉野美奈子氏が、「ART FOR ALL」〜ニューヨークの現場にみる芸術教育と生涯教育〜と題して講演されました。

記念講演

演題

ART FOR ALL  
〜ニューヨークの現場にみる  
芸術教育と生涯学習〜

講師

彫刻家・画家  
吉野 美奈子 氏



高校時代を富山で過ごし、富山外国語専門学校卒業後、旅行会社で働きながら、武蔵野美術大学で油絵とグラフィックデザインを学びました。その後、短期でも良いから留学したいと思い、芸術教育を通して生涯学習を推進している「Art Students League of New York」に学びました。

同校は、1875年に設立された美術学校で、5人の学生が、自分たちの芸術を追究できる場所が欲しいと考え、共同でスタジオを借りたのが始まりでした。

1906年には、高村光太郎も留学生として同校で学び、欧州留学賞を受賞しました。そしてパリに渡り口ダンと出会って、日本近代彫刻の扉を開いたと言われています。私は、「二十世紀の高村光太郎」に続く「二十一世紀の吉野美奈子」を目指して同様の留学賞に応募し、二度目

の挑戦で受賞することができました。物事は諦めることなく挑戦し続けることが重要で、仮に受賞できなくても、そこから何かを学んでいくことが大切だと思います。

留学当初、彫刻をやるうという気持ちはなく、せめて人体をまともに描けるようになりたいと思っていました。

私の作品の中に「Water Spirit」という絵画があります。水は、どんな所でも形を変えて器に収まることができることから、富山であれニューヨークであれ、水の本質のように、自分自身は変わることなく生きようというスピリッツ（精神）を描きました。

彫刻家になったきっかけは、ニューヨークのサンビルディングという、世界で初めて建築された百貨店の修復工事に携わったことでした。外壁から破損している大理石の塊を抜いて新しい大理石を入れ込む工事で、修復部分の大理石を染めてエイジングさせる色合わせの仕事を担当しました。プロジェクト終了の二日前、不用となった大量の大理石をみつけ、「大理石は地球が何億年もかけて作ってくれたこの星の欠片だから、人間の経済の勝手で好きだけ掘り出して、いらなくなったら捨てることはできない。」と思いを助けた一心から作品を彫り始めました。

彫刻は三次元で制作する必要がある、大変苦労して最初の一体を仕上げました。完成後、リーグの学生展に出展した途端、新しい仕事や作品購入のオファーがあり、奨学金のコ

ンペティションでも受賞させていただき、本格的に彫刻の道を志すこととなりました。

ニューヨークのリバーサイドパークには日本神話のイザナギ・イザナミを題材とした野外彫刻「Lovers」を発表しました。予算の問題から、石で彫ることができず、朝から晩まで粘土の勉強をして、石の粉を固めて完成させました。彫刻の足元にある千個のブルーストーンの小石には、世界からFacebookやTwitterで集めた愛のメッセージを書きました。

その後、大きなブルーストーンを彫刻素材としたモニュメント「眠る人魚像」の制作にも挑戦しました。ブルーストーンは、石の中に層がある特徴から、撃を打って彫りだすことができず。そこで、ダイヤの刃で削る方法を思いつき、大きな芸術作品としては、世界で唯一のブルーストーン彫刻を完成させました。

1 Art for all

野外彫刻の「眠る人魚」や「Lovers」は、個人のためだけではなく、みなさんのために、さらに社会や街をデザインしたいという思いで創りました。四角いグレーのビル群の中に、白く柔らかな恋人たちの像があったら、その場所を特別な場所に変えられるだろうというアートの力を私は信じています。

アートは彫刻家や絵描きやミュージシャン達だけのものではなく、どなたでも日常にあるお料理やお花と同じように楽しんでいただけるものです。また、何か選択に迫られた時、既成概念に拘束されることなく、自

由に創意工夫をこらすこと。これがそがアートの大切なエッセンスだと思います。私は「自分の人生が一番の作品でなければならぬ」と思っています。そして、誰もが自分の人生のたった一人の作家なのです。

2 Yes period

何か新しいことをやってみようかどうかと悩んでいる時は、「できるか」「できないか」よりも「やりたいか」「やりたくないか」を自分に問うことで、前に進めると思いますが、もし仮にできなかったとしても、そのプロセスで自分が何かを学べるのは素晴らしいことです。何でも「やってみよう」という気持ちでどうぞ大切にしてください。

3 This moment

風景が刻々と変化してゆくように、どの瞬間も返らないことは誰でもわかっているはずですが、中々「今」に集中するのは難しいことかもしれません。しかし、人生は「この瞬間」の連なりです。過去を後悔したり、未来の心配をするよりも、今を最大限に生きてゆきましょう。

テロや戦争で突然終わってしまう人生というのは、日本にいて想像しにくいかもしれませんが、それは世界のあちこちで現在進行形で発生している現実があります。どの瞬間も何が起るかはわかりません。だからこそ、「今できる事を一杯」これは高校生だけではなく、いつでもどんな状況でもどんな年齢でも、心に留めておいていただければと願っています。

# 研究発表概要

## 「家庭教育とPTA」

～地域と伝統を守り、

現状を打破する～

八尾高校井泉会前会長

教育振興会会長 渡辺 清美

八尾高校では地域に根ざした活動に取り組んでいる。「地区別懇談会」は親と教師とがざつくばらんに話し合い、子供の育成、教育の在り方を探求するというもので、各地区の副会長と地区委員が中心となって各地区の公民館やコミュニティセンターなどで6月下旬から7月初めにかけて実施される。これまでの成果として、通学路に街灯を設置、通学が不便な地区に通学バスを通す、教室にエアコンを設置する、などがある。この地区別保護者懇談会は昭和57年から始まり、現在まで継続されている。「親と子の懇談会」は、生徒と保護者が自由な雰囲気の中で交流を深める行事で、子供の本音を聞くことで親としての在り方を学ぶ良い機会にもなっている。例年9月中旬、公開授業と合わせて平日放課後に実施している。この活動も歴史は長く、昭和50年から始まって現在に至っている。運営は各学年委員が中心で、学校の手を借りない、自立した活動として成立している。

八尾は地域の絆が強い反面、新しい風が吹き込みにくい。それだけに、親自らが現状を打破し、子供たちの自立を促すことが、PTAとしての務めではないかと考えている。

## 「高校教育にPTAは

どのように関わるべきか」

新湊高校PTA

会長 油谷 秀隆

「高校教育とPTAとの関わり」というテーマで、全学年の保護者を対象に意識調査を実施し、今後のPTA活動のあるべき姿を探った。

本校のPTAによる主な活動は、PTA総会、各学年懇談会及び学年研修会、PTA講演会、年2回のPTA新聞の発行等がある。また、学校行事への協力として、マラソン大会のコース警備やさわやか運動への参加、キャリアガイダンスへの講師派遣等も行っている。

アンケートは、PTA活動に対する意識調査を中心に行い、各活動の参加率との関係を考察した。

アンケート結果から、子供が高校生になっても先生方や子供たちと何らかの関わりを持ちたいと思っている保護者が多く、いくつになっても「子供がかわいい」「子供に関わっていたい」ことがわかった。しかし、一方では、高校生にもなれば、保護者があまり手をかける必要はないのではないかと考えるもあり、高校教育にPTAはどのくらい関わっていくべきなのかについては意見が分かれるところであった。

今後、PTA活動をより一層充実させ、どの保護者も「新湊高校に入学して良かった！」と思えるように、PTAが一体となって活動に取り組んでいきたい。

## 「高校教育とPTA」

～地域の教育力を

生かした高校教育～

南砺平高校PTA

会長 折口 和男

本校PTAでは、次の二点をPTAの役割と考え活動してきた。

- ・よき校風を守り発展させていくには、学校とどのように連携をとれば良いか
- ・生徒たちの健全な人格形成に、どのように関わっていけば良いか

本校は、全校生徒92名の小規模校ながら、スキー部と郷土芸能部を合わせると、全生徒の約七割が全国大会に出場する、全国的にも稀有な学校である。この成果の裏には、地域の指導者や多くの保護者のご理解とご協力がある。

また、本校は、全国的にも珍しい小中高合同運動会や世界遺産の合掌造りの屋根を葺く茅の刈取り体験、五箇山の歴史文化等を調査・研究する「五箇山研究」（総合）の時間がある。いずれも地域の方々等のご協力を得て運営されている。

これらは、まさしく、学校・地域・保護者が共に連携し、「家庭的」な環境の中で生徒たちを育てている一例と言える。

これからの時代、子供たちはただ進学するだけでなく、社会と関わって生きていく能力を身につけることが大切である。そのためには、PTAもPTCAとしての活動を考えなければならぬ。

## 「PTA活動で学ぼう！

～本校における取組～

となみ総合支援学校PTA

会長 上田 春江

本校は、平成8年度に高等部が設置され、現在は知肢併設の総合支援学校として、小・中・高等部が一緒にPTA活動に取り組んでいる。

PTA活動は、大きく「学ぼう」「楽しもう」「つながろう」の三つの内容に分けられている。「学ぼう」では、将来の進路選択につながる研修視察や進路研修会、災害時に備えての炊き出し訓練などを行っている。「楽しもう」では、学部・学年の枠を越えて楽しむ「ボウリング」や「クリスマス会」を行っている。「つながろう」では、地区ごと

（小矢部、砺波、南砺など）に集まり情報交換会を行ったり、学習発表会に近隣の高校生や地域の方にボランティアに来ていただき交流の機会を設けたりしている。

特に研修視察や進路研修会、地区別情報交換会については、子育ての悩みや将来の不安についても情報交換したり共有したりして、少しでも悩みや不安を解消できる機会になればと思ひ、取り組んでいる。

子供たちは、卒業後の社会自立を目指して一人一人が頑張っている。少しでも子供たちの手助けができるよう、PTAとしての役割を再認識し、今後のPTA活動を濃いものにしていきたい。

# 11〜7運動実施状況

「運動の周知を図るために取り組んだこと」については、左表の結果となりました。

昨今、インターネットやSNSによるトラブルはあとを立ちません。富山県高等学校PTA連合会では、昨年度からイレブン・セブン運動(夜11時から翌朝7時までスマホ等を使用しないよう家庭で話し合いを实行する運動)に取り組んでおります。

昨年度は、11〜7運動の紹介とともに、啓発活動に使用するポスター原画を募集しました。最優秀賞作品は、高P連加盟の各単位PTAや関係機関に配布しました。

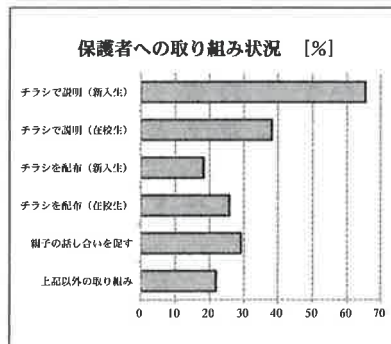
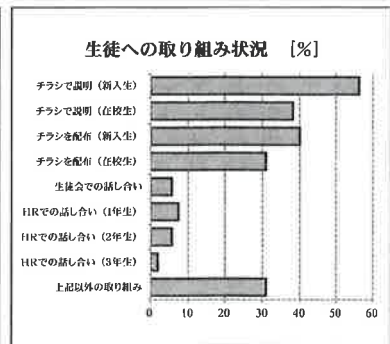
今年度は、そのなかの優秀賞作品を使用して保護者向け、生徒向けチラシを作成し、各学校へ送り、集会や保護者会等で活用していただきました。

また、6月及び10月開催の教育向上委員会の議題として取り上げ、現状を認識するとともに、今後の取り組みに生かすため、取り組み状況調査を昨年度に引き続き実施することとしました。

高P連が平成28年10月に実施した取り組み状況調査(対象:加盟高等学校・特別支援学校)について報告します。



「運動の周知を図るために取り組んだこと」については、左表の結果となりました。



ほとんどの学校で何らかの取り組みは行われています。しかし、依然としてHRや生徒会での話し合いは10%未満と低くなっています。

家庭での話し合いを促す取り組みは29%と昨年より9.1ポイント増加しています。11〜7運動の浸透につながるものと期待しています。

その他の取り組みとしては、講演会や親子座談会、強化週間の設定と生徒会による呼び掛け、独自の使用禁止時間帯の設定などがありました。

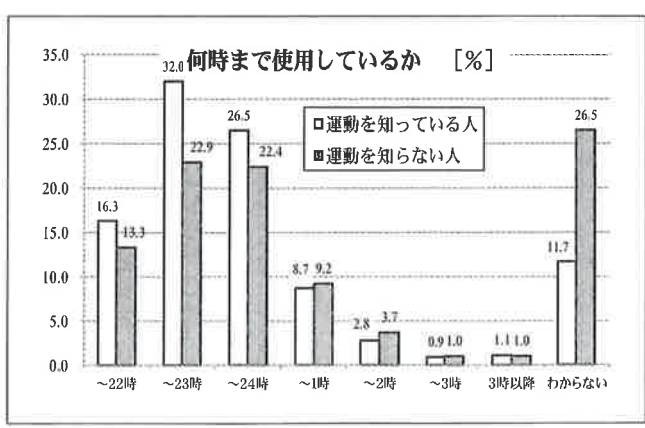


次に、富山県高等学校生徒指導推進研究委員会(高推研)が平成28年8月に実施したアンケート(対象:高校53校(私立を含む)の各学年1クラス、特別支援学校13校の全クラス)結果について報告します。

11〜7運動の認知度調査では、県立学校(高P連加盟校)生徒の63%が知っていると答えており、昨年度より11ポイント増加しています。認知度はアップしていますが、更なる啓発活動が必要と考えられます。

一方、使用時間を見ると、11〜7運動を知っている生徒は、夜遅くまで使用する割合が、知らない生徒に比べて少なくなっています。特に、知っている生徒の半数近くが使用時間帯が23時までとなっており、運動

の成果が徐々に現れていると考えられます。この運動は着実に浸透してきていると思われませんが、インターネットやSNS等によるトラブル防止は喫緊の課題であり、次年度も継続して取り組んでまいりたいと思います。



# 共学共育

## \*富山聴覚支援学校PTA\*

### 「皆で取り組むPTA活動」

本校PTAは、会長1名、副会長5名、会計監査2名、行事・文化・編集の三つの委員会で構成されています。委員会には、全ての保護者が所属しています。活動に参加しやすいように希望調査をして所属を決定しています。



交流活動(マジックショー)

本校は、平成22年度の福祉・サイバース科創設時に学校の名前も変わり、聴覚障害のある生徒と軽度知的障害のある生徒が共に学び、互いの力を高め合うことを目指しています。

PTA活動では、私たち親が、様々な人との交流活動を通して互いの理解を図り、感謝や思いやりの心を持ち、共に活動を行うことで、子供たちの「見て学ぶ」につながるように取り組んでいます。

執行部では、学校外の研修会に参加したり、学習発表会のバザーを行ったりしています。バザーについては、保護者全員参加の下、いろいろな情報交換の場ともなっております。

行事委員会では、体育大会のPTA競技や交流活動の企画運営をしています。交流活動では、日時・内容を十分に検討し、今年度は富山県在住のマジックショーによるマジックショーを行いました。幼児から高等部の生徒、大人と参加者の年齢に幅がありますが、全員が楽しめるものとなりました。



学習発表会バザー

文化委員会は、ベルマークの収集と教養講座の企画運営をしています。今年の教養講座は、保護者の希望からUVレジン(ジェルネイルを使ったアクセサリー)講習を行い、参加者から「手軽に素敵な作品ができて楽しかった」と好評でした。

編集委員会ではPTA広報誌「朗和」を年2回発行しています。新入生の紹介を始め、PTA行事、学校行事の様子や今後の予定について記事を載せ、会員にPTA活動をお知らせしています。

今後も、個々の実態に応じた有効なコミュニケーション手段を相手や場に応じて使用できる機会を作り、子供や親にとってもよりよい交流の場となるように、充実感のある活動を続けていきたいと思っております。

富山聴覚総合支援学校PTA

会長 二川 裕子

## \*高岡商業高校PTA\*

### 「子供のため、

### 学校のためのPTA」

本校のPTAは、会長1名、副会長5名、監査2名、委員長3名を含む、理事22名、クラス委員32名の合計54名で構成されています。

委員会は、総務広報委員会、生活指導委員会、部活動推進委員会の3委員会があります。

総務広報委員会では、年2回PTAだより龍骨を発行し、子供たちの部活動の結果や学校行事の様子と、卒業生の進路状況や模擬株式会社りゅうりゅうの紹介を掲載しています。



PTA研修会

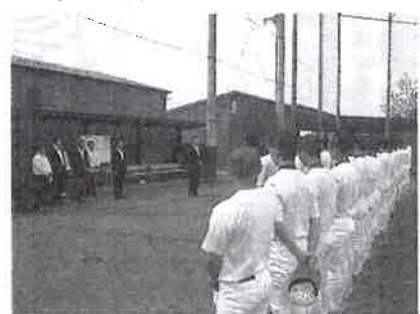
また、年1回のPTA研修会では、富山大学・富山短期大学・アイシン軽金属(株)を訪問し、学校・企業の説明やどのような人材を求めているかなど具体的な話を聞き、卒業生や人事担当者の方々との意見交換などによって、子供と進路の話をするうえで非常に良い学びの機会となりました。

生活指導委員会では、さわやか運動をはじめ、ネットを介したトラブ

ルや犯罪から守る環境づくりのために、モラル向上の啓発を継続していきます。

### 部活動推進委員

会では、毎年部活動激励を行っております。部ごとに、子供たちの目標や決意を直接聞ける場でもあるので、毎年多くの保護者の参加があります。キャプテンが目標や決意を保護者の前で宣言し、保護者代表の激励の言葉を聞く。その際の子供たちの表情には、毎回頼もしさを感じます。



野球部激励

本校は、「商業教育」「部活動」「社会交流」を通して人間教育をしています。全ての生徒が部活動を行い、姉妹校との交流や、多くの資格取得を目指し活発に日々の学校生活を送っています。子供の人間的成長の一助となるPTA活動を今後も行いたいと思っております。



さわやか運動

高岡商業高校PTA

会長 樋口 和久

＊石動高校PTA＊

「子供と一緒に

活動して学ぶPTA」

本校のPTAは、会長1名、副会長9名、監査2名、各委員会所属が55名で活動しています。委員会は、広報委員会、保健厚生委員会生徒生活指導委員会、進路指導委員会の4つで構成されています。保護者も学ぶ活動をしています。

広報委員会では、年3回PTAだより「ごごみ野」を発行しています。学校行事、部活動の様子紹介やPTA活動の紹介、行事案内とそれらに関する保護者の感想や意見を掲載しています。

保健厚生委員会では、救急救命法の講習会、保健講話を実施しています。自己啓発や健康管理の啓蒙機会として活用させてもらっています。生徒生活指導委員会は、部活動参観、さわやか運動(朝のあいさつ運動)を実施しています。さわやか運動ではPTA委員と先生方、生徒にも協力頂いています。昨年は小矢部市ゆるキャラのメルギュー君も参加してくれました。部活動参観は高校へ行くことがあまりない中、部活動を見る機会、施設や練習環境を見る機会ができて保護者から好評です。進路委員会は、進路講演会と学校視察を実施していま



さわやか運動



進路講演会

す。進路講演会は大学や教育教材機関の方を招いて現状の大学の状況や進路の傾向等の講演をしていただきます。学校視察は富山県と石川県の大学、短大、専門学校の視察で、両県を隔年で訪問しています。いまの学校の雰囲気や空気に触れられて現在の学生のキャンパスライフが感じられます。その他に自前講座があります。生徒が職業の内容について聞く機会です。PTA会員(保護者)、高校OBの方や近隣、地域の方の約15名の方にお願いして、高校の教室でそれぞれの職業についてお話を聞いていただきます。生徒は事前にどの方(職業)の話の聞くか決めてあります。これらの進路、進学の参考にしてみたいと嬉しく思います。



自前講座

このように石動高校PTAでは様々な取り組みを通して生徒と学校保護者、地域の連携を図り、子供たちのサポート、保護者の啓発活動を行っています。これからも参加しやすいPTAを目指して活動を活性化していきたいと思えます。

石動高校PTA

会長 高田 幸男

新年度教育関係予算の充実を知事に要望

1月18日に石坂会長と副会長5名が県庁に石井知事を訪ね、「時代の進展に即応した学校づくりの推進」「特別支援教育の充実」「高校生徒指導等の充実」「教員の資質向上」の4点を重点に県立学校の教育振興を要望しました。



また、北信越高P連大会富山大会への支援や、高大接続の制度改革に向けた教育現場での適切な対応などについても要望しました。

石井知事は、「主権者教育啓発活動については、大きなことなので引き続き応援したい。高大接続についてのシステム改革にはしっかり対応していきたい。ICT環境のインフラ整備を速やかに行うと共に教員研修も充実させたい。教育相談体制については現場のニーズに応じた対応ができるようにしたい。奨学金については向学心旺盛な学生が安心して教育が受けられることが大切であることから、県としても返還については弾力的な対応を行っているが、今後もしっかりと対応していきたい。北信越高P連大会は大事な大会であり、しっかり対応したい。」などと回答されました。

平成28年度の主な事業

- 4月22日 27年度第4回理事会
- 5月17日 第1回幹事会
- 6月7日 定期大会
- 6月16日 第1回企画委員会兼理事会
- 6月中下旬 第1回教育向上委員会
- 7月8・9日 地区PTA指導者研修会

北信越地区高P連研究大会 福井大会

7月16日 富山県社会教育大会

7月19日 第2回企画委員会

8月5日 県P連・高P連教育懇談会

8月25・26日

9月20日 全国高P連大会千葉大会

9月29日 第3回企画委員会

10月4日 第2回幹事会

10月25日 第2回教育向上委員会

10月29日 県高P大会・指導者研修会

12月8日 教育関係予算の県教委陳情

1月18日 第4回企画委員会

2月16日 教育関係予算の知事要望

第5回企画委員会

第3回理事会

北信越高P連大会

富山大会第1回準備委員会

編集後記

今年度も会員の皆さまには、各学校のPTA活動はもとより、各種大会への参加、本会報への寄稿、11・7運動の実施などをはじめ本連合会の事業にご理解、ご協力をいただきありがとうございました。

来年度は、7月7日・8日の両日、北信越高P連大会が、本県の富山県民会館を主会場に開催されます。チーム富山県高P連として、大会成功に向け頑張りましょう。よろしくお願いたします。(事務局長 広井)